

## 昭和電工株式会社 2018年1Q 決算説明会 Q&A 要旨

日時：2018年5月9日（水）18:00～19:00

説明者：取締役 執行役員 CFO 加藤 俊晴

\* 内容は、開催日時点の情報に基づいております。

### 【全社】

**Q 上期業績予想につき、無機セグメント以外の1Qから2Qへの変動について。石油化学、エレクトロニクス、アルミニウムの各セグメントをどう見ているのか。**

A 石油化学は10億円の増益修正としたが1Q対2Qでは減益を見込む。1Qの原料ナフサの受払差はプラスだったが2Qはなくなる。また有機製品・サンアロマーは、2Qは価格転嫁のタイムラグ等で多少悪く見ている。HDは、2Qの出荷数量は1Q比ほぼ横ばいであり、営業利益は1Q並みとしたが期初予想より改善傾向にある。アルミニウムは、アルミ地金高の影響を小幅に受ける国内向けアルミ缶を除き堅調で、2Qは1Q並みの利益を想定している。

### 【化学品】

#### （電子材料用高純度ガス）

**Q 高純度ガスの出荷数量の伸びについて。NAND向けは堅調か。**

A 半導体の伸びが大きい中、3D-NAND用のエッチング向けが特に増えている。高純度ガス全体では前年同期比10～20%の伸びと堅調。

### 【エレクトロニクス】

#### （LIB材料）

**Q 1Qは前年同期比で出荷数量増となり増益だったとのことだが今後の見通しは。**

A 当社の主要出荷先である中国市場について、EVの出荷増を受けた今後の本格的な伸びを期待している。原料価格の高騰を受け、製品の一部で価格転嫁をお願いしている。

### 【無機】

**Q 無機セグメントについて、大幅増益となった要因は黒鉛電極の市況上昇と捉えて良いか。**

A その通り。需給逼迫の環境下、黒鉛電極の国際市況が上昇したことが要因である。

#### （黒鉛電極）

**Q 今後の黒鉛電極の需給動向について、どう見ているか。**

A 2020年まではタイトな需給バランスが続くと見ている。ハイエンドUHP黒鉛電極は、これまで5年程度の需給サイクルで推移していたスパンの長い事業だ。今回の価格上昇基調は昨年半ばから始まったが、このトレンドは暫く続くと見ている。UHP黒鉛電極業界は、昨年までに世界で2割程度の能力が削減され、原料である高品位ニードルコークス業界も同様に能力が削減された。

今後は、中国中心に原料ニードルコークス・黒鉛電極の生産能力増強があると思うが、当社のUHP黒鉛電極市場と増強の話がある中国のLF用SHP電極市場とは違い、中国の増設分がUHP市場の需給に大きな影響を与えるとは見ていない。

また、黒鉛電極の増設には多額の費用と長い時間がかかり、設備投資の意思決定から最短でも2～3年は必要。実際には新設分の影響が出ても2021年以降だと見ている。

**Q 当社・北米拠点の3万t増強分の稼働はいつからか。**

A 生産工程が長い段階的に稼働を進めている。2018年下期から徐々に生産量が上がり年末までにフル稼働体制となる。

**Q 当社は生産能力増強の考えはあるか。**

A 米国における3万t増強分が今後徐々に稼働する点を除けば、現時点で増強計画はない。

以上

\* 本資料の将来見通し等に関する記述は、今後以下のような様々な要因により実際の業績と大きく異なる結果となる可能性があります。  
・経済情勢、ナフサ等原材料価格、黒鉛電極製品等の需要動向および市況、為替レート  
・法改正や訴訟等のリスクなどが含まれますが、これらに限定されるものではありません。  
また、為替レートや国産ナフサ価格など予想の前提につきましては、2018年5月9日発表の弊社決算短信をご参照ください。